

絆への期待 ～宮城に暮らすインドネシア人から～

東北大学国際企画課・国際交流オフィサー
インドネシア人ムスリム協会・会長

アンディ・ホリック・ラムダニ

2023年2月19日

1. 「インドネシア人」について

- インドネシアは600を超える民族が存在し、700を超える民族言語がある多民族・多言語の国である。
- 多くの人々が家庭や仲間うちなど私的な空間では第一言語である民族語を使用し、教育、放送、政治など公的な空間では国語であるインドネシア語を使用する。
- また、多民族・多言語の状況に宗教的アイデンティティも加わり、インドネシア人のアイデンティティは、様々な要素が交錯するかたちで現在も残っている。
- 国民としての「インドネシア人」というアイデンティティは、1945年第二次世界大戦後インドネシアが独立を宣言し、それまでインドネシアを植民地支配していたオランダと独立戦争をする中で、意識されるようになった。

インドネシアの中に存在する文化伝統の異なる多様な民族 をどのように位置づけるか？

- 独立後のインドネシアには、宗教の違いや民族感情に根ざした地方の反乱が続き、インドネシア政権は国の統一と国民の統合を掲げ、民族、宗教、人種問題に関する活動や報道を禁止された。
- 特に国語であるインドネシア語は、多様な民族をひとつにまとめる重要な役割を与えられ、民族言語は地方語として文化を表現する非政治的な役割となる。
- 強力な国民統合政策の下で、インドネシア語を中心にひとつの国としてのアイデンティティが優先され、民族の違いはよくせいされた。

- その影響で、多様な民族文化の伝承は困難になりつつある。その背景には教育やメディアの影響もあるが、地域コミュニティに移住者が増加し、文化的なきんしつせいが薄くなってきていることにも原因がある。
- このようなインドネシアの中央集権的な国家運営は1990年代後半からの自由化、民主化の波により大きな改革を迎えた。
- 地方分権化が掲げられる中で、言論の自由化が進められ、特定の民族や宗教に関わる団体活動も以前に比べて自由に行われるようになり、中国系やアラブ系も国民の構成員として位置づけられ、民族の違いが公に認められるようになった。
- インドネシアという国が多様な文化と言語を保持する多様な民族集団から成り立っていることで、伝統文化を表現する地方語・民族語は大切に保存しなければならないという認識が共有されている。

2. インドネシアの民族

2.1 ジャワ族

- インドネシアにいる民族の中で、国の人口に占める割合が最も高いのがジャワ人。元来、主にジャワ島の中部と東部に住んでいるが、インドネシアの移住政策によりインドネシア全ての州に分布している。政府や軍で働く人も多く、インドネシアの大統領はほとんどジャワ族の血を持っている。
- ジャワ人はスマトラ島の民族（パダン族、バタック族）と同様に、仕事ができ、出稼ぎをしている族と知られている。
- ジャワ人の多くはイスラム教徒ではあるものの、民族宗教であるケジャウエンも信仰として残っている。土着の宗教にイスラムやヒンドゥー、仏教の概念を柔軟に取り入れており、独自の新しい概念を生み出しています。

2.2 スンダ族

- インドネシアにおいて、人口の約15%を占めるスンダ人。マレー族系のスンダ人の多くはジャワ島西部で生活しているといわれている。インドネシア第3の都市バンドンに多くおり、美人な人が多いことでも知られている。
- 現在ではイスラム教徒が多いものの、イスラム教が伝来するまではスンダ・ウィウィタンという土着信仰が中心だった。自然や祖先の霊を崇拝する信仰で、スンダ人の**考え方**や**行動規範**にも影響をもたらしている。
- その中のWiwaha yudha naradhaという原則は、伝統と両立しないものは拒絶しなければならないということを意味しており、イスラム教を信仰する人が多くても、スンダウィウィタンの要素は現代に生き残っているといわれている。

2.3 中華系

- キリスト教徒や仏教徒の人が多くいる中華系インドネシア人はインドネシア全体の1%ほどだ。全体の人口としては少ないものの、インドネシア経済において重要な役割を担っているのが中華系インドネシア人。サリムグループ、シナルマス、リッポーグループなど、インドネシアのざいばつのほとんどは中華系インドネシア人がオーナーである。
- インドネシアでは、プリブミ（大地の子という意味。主にマレー系を指す。）と中華系、アラビア系、インド系という図式が存在しており、中華系とプリブミの確執はオランダ植民地時代までさかのぼる。

- 当時華人の地位がプリブミより高く、1740年にはバタヴィア華人虐殺事件が起こった。1958年には華語の使用や出版物の出版が禁止になり1994年まで続いた。その間にも国立大学への入学制限や公務員や軍人、医者などの職業制限があり、商人こそが唯一の職業選択肢だった。
- 現在ではプリブミとの混血や中国語を話せない中華系の若者も多くいる一方、経済界は相変わらず中華系が握っている。





3. インドネシア人の宗教

- イスラーム教

インドネシアで最も多くの人々が信仰しており、インドネシア総人口の87%がイスラーム教である。イスラーム教徒の女性は、頭にヒジャブと呼ばれる布をつけている。しかしインドネシアはイスラーム教の教えが厳しい国というわけでもないため、イスラーム教でありながらヒジャブをつけていない人、お祈りに参加しない人、お酒が飲める人、などさまざまな人がいる。

- プロテスタント

一般に、インドネシアで「クリスチャン」と呼ばれるのは、「キリスト教プロテスタント」を指す。イスラーム教徒に次ぐ割合の多いが、オランダの植民地支配の際に信仰が広まったと言われている。十字架にはイエスははりつけにされず、シンプルに十字架だけがある。

• カトリック

3番目に多い、カトリックは、これはポルトガル統治時代に信仰が広まったと言われている。プロテスタントの教会にはシンプルな十字架があるが、カトリック教会にはイエスがはりつけにされた十字架がある。主にスラウェシ島北部で信仰が盛んである。

• ヒンドゥー教

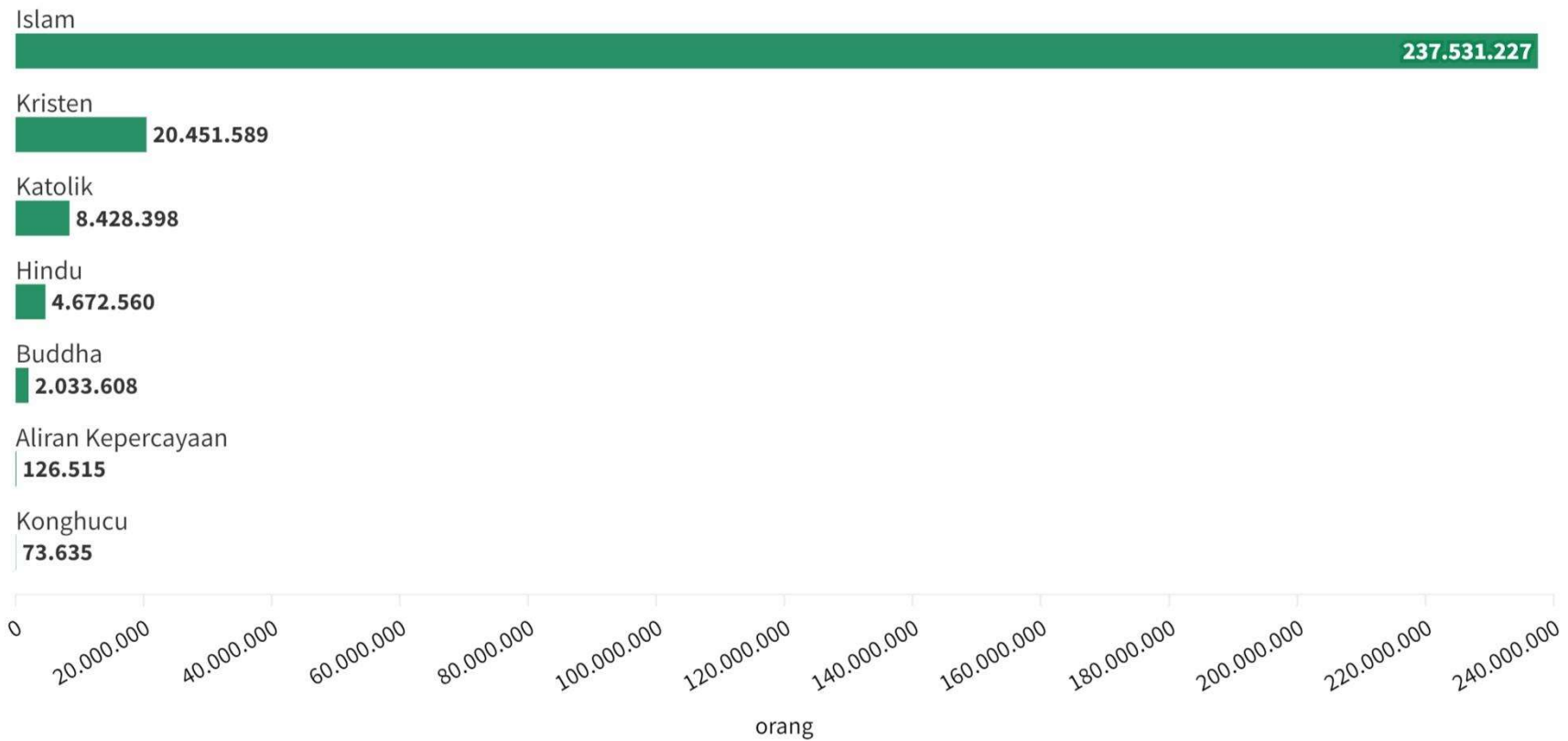
インドネシアでヒンドゥー教といえばバリ島であり、バリ島の住人の大部分（約90%）はヒンドゥー教である。そのため、ジャカルタでは決して見ることができない豚の丸焼きや、いたるところでお酒が販売されている。

• 仏教

インドネシアで「仏教」を感じることは、ジョグジャカルタにあるボロブドゥール遺跡である。たった1%しかいない仏教であるが、歴史博物館にも仏教の名残を受けたものが多く貯蔵されており、仏教の存在をインドネシアにも感じることはできる。

インドネシア人の宗教分布

Jumlah Penduduk Indonesia Berdasarkan Agama (per 31 Desember 2021)



Sumber: Kementerian Dalam Negeri (Kemendagri)

インドネシアの祝祭日

2014年	<インドネシア祝祭日>	備考
Jan. 1	Tahun Baru 2014	
Jan. 14	Maulid Nabi Muhammad SAW	モハメッド* 降臨祭
Jan. 31	Tahun Baru Imlek 2565	春節
Mar. 31	Nyepi Tahun Baru Saka 1936	ヒンヅ* -新年
Apr. 18	Wafat Isa al Masih (キリスト受難日 Masih=Messiah 救世主)	Good Friday
May 1	Memperingati Hari Buruh Internasional	May Day
May 15	Hari Raya Waisak 2558	釈迦誕生日
May 27	Isra Mi'raj Nabi Muhammad SAW	モハメッド* 昇天祭
May 29	Kenaikan Isa al Masih	キリスト昇天祭
Jul. 28-29	Idul Fitri 1435 Hijriyah	断食明け祭典
Aug.17	Proklamasi Kemerdekaan R.I.	インドネシア独立記念日
Oct. 5	Idul Adha 1435 Hijriyah	犠牲祭
Oct. 25	Tahun Baru 1436 Hijriyah	イスラム暦新年
Dec. 25	Natal Hari Pertama	クリスマス

イスラーム教の生活



プサントレン

インドネシアにおける寄宿制(きしゅくせい)のイスラーム学校のことである。
「ポンドック・プサントレン *Pondok Pesantren*」ともいうが、
いずれも特にジャワの伝統的なイスラーム寄宿塾(きしゅくじゅく)のことを指す。



キリスト教の生活



ヒンズ教



ヒンズ教の生活



仏教



仏教の生活



儒教



儒教の生活



4. インドネシア人の性格・特徴

- a. 帰属意識が強く、根回しは重要
- b. 対立は好まない
- c. はっきりNOを言わない
- d. 感情をあまり表に出さない
- e. 流行にのりやすい
- f. 「ゴム時間」を管理する
- g. 明瞭化できるものは明瞭化する
- h. 人前では叱らない
- i. スローペース

5. インドネシア人から見た日本人

- 日本の印象でよくある言葉は「discipline（規律）」である。日本を規律の整った国家、きれいな国という認識をしている印象が多い。
- 仕事に対してはオーバーワークする国だという認識があり、給料が高くても日本企業は厳しいイメージを持っている。
- オランダの植民地支配から日本が開放したという印象がインドネシア人に残っているが、日本兵はインドネシア人の生活を恐怖と悲惨にする印象がある。
- 中国企業などもインドネシアに投資を行っているが、日本への期待は彼らに対するものより大きい。日本は、東南アジアではブランドイメージが良く、個別日系企業においては、中国企業とは異なり現地の人材育成に対して投資を行うため、将来的に生じる経済的な波及効果への期待も高い。

6. プロジェクト2045年

- プロジェクト2045（副題：Indonesia-Japan 2045: A Joint Project of Two Maritime Democracies）は、日本とインドネシアの民間有識者が、インドネシア独立100周年にあたる2045年に向けて、両国が今後どのような協力を進めていくか自由な立場での議論を行い、未来に向けた指針となる政策提言を行うプロジェクトである。
- 2045年に向けて、日本とインドネシアは①共に民主主義を維持し、海洋大国となること（政治面）、②世界のトップ5経済国入り（経済面）、③2030年持続可能な開発目標（SDGs）を超えた高い生活水準の達成（社会面）、という共通の3つのターゲットを達成する必要がある。こうしたターゲット達成のため、10分野の課題が特定された。

1. 民主主義と多様な社会の維持
2. 海洋安全保障とルールに基づいた国際秩序の強化
3. インドネシア及び日本における地域及びグローバルなサプライチェーンの強化
4. インフラ開発
5. 投資を通じた経済の強化
6. 人材開発
7. 地域経済活性化
8. 衡平な社会の追求
9. 生活の質を向上させるためのデジタルテクノロジー
10. 国土強靱化の実現等

- 政治面ではインド太平洋地域の航行・飛行の自由・安全のための多数国間閣僚会合の共催。
- 経済面では自由貿易の促進、インフラ開発及びインドネシア製品の輸出拡大のための共同研究。
- 社会面では、離島地域スマート・シティー化のためのマスタープラン策定・実証実験、早期警戒システムの導入による、自然災害に対する強靱性の強化といった合同プロジェクトを積極的に進めて行く必要がある。
- 特に、人材育成については、テクノロジーが想像もつかない発展を見せる中、どの目標実現においても必要とされる分野横断的な挑戦であり、日インドネシア両国は職業訓練を含めた、様々な人材育成について協力すべきである。
- **しかし、20年後の日本自体が、人口減少や高齢化がすすんでいるため、世界的に影響力のある勢力であり続けられるかは分からないという問題を抱えている。**

7. 参考文献

- 愛知県国際交流協会

<http://www2.aia.pref.aichi.jp/>

- 在インドネシア日本大使館

https://www.id.emb-japan.go.jp/news18_39j.html

ご清聴ありがとうございました